

市町村版標準仕様の採用事例

～地域の特性を活かしつつ～

2017年3月6日

森林ICTプラットフォームの概要

森林ICTプラットフォーム

森林資源情報

所有者情報

路網情報

施業履歴情報

市町村

情報連携

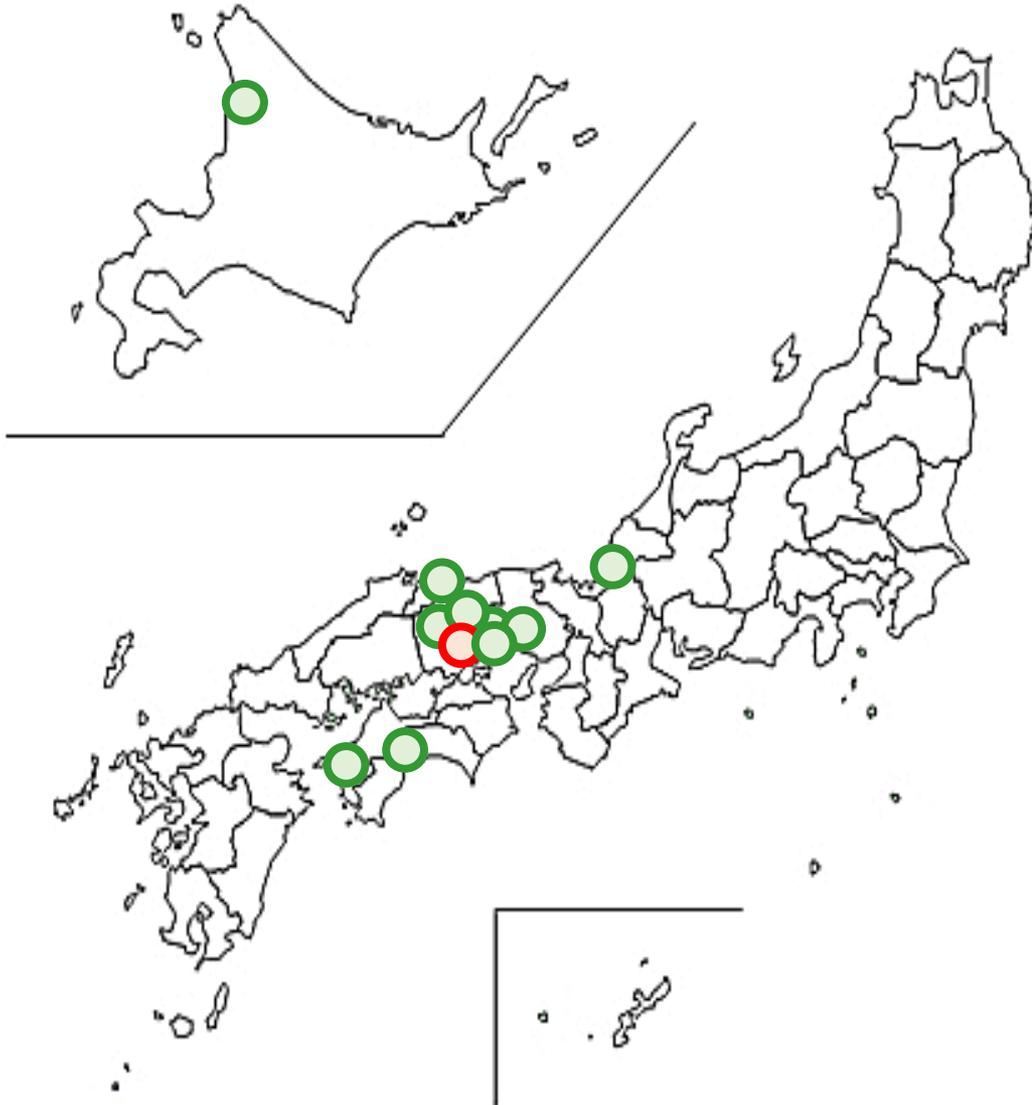
林業事業者

★ 総務省「ICT街づくり推進事業」及び「ICTまち・ひと・しごと創生推進事業」の成果 ⇒ 成功事例として全国に横展開中

★ 林野庁「森林クラウドシステム標準仕様」に準拠

森林ICTプラットフォームの普及状況

11市町村に普及(H28事業のうち計画中のものを含む)



真庭モデル

H25 総務省
ICT街づくり
推進事業

・岡山県真庭市

※真庭の森林を活かすICT地域づくりプロジェクト

岡山モデル

H26 総務省
ICT街づくり
推進事業

・岡山県美作市
・岡山県美咲町
・岡山県鏡野町

全国モデル

H27 総務省
ICTまち・ひと・しごと
創生推進事業

・北海道中川町
・兵庫県佐用町
・福井県高浜町
・鳥取県三朝町

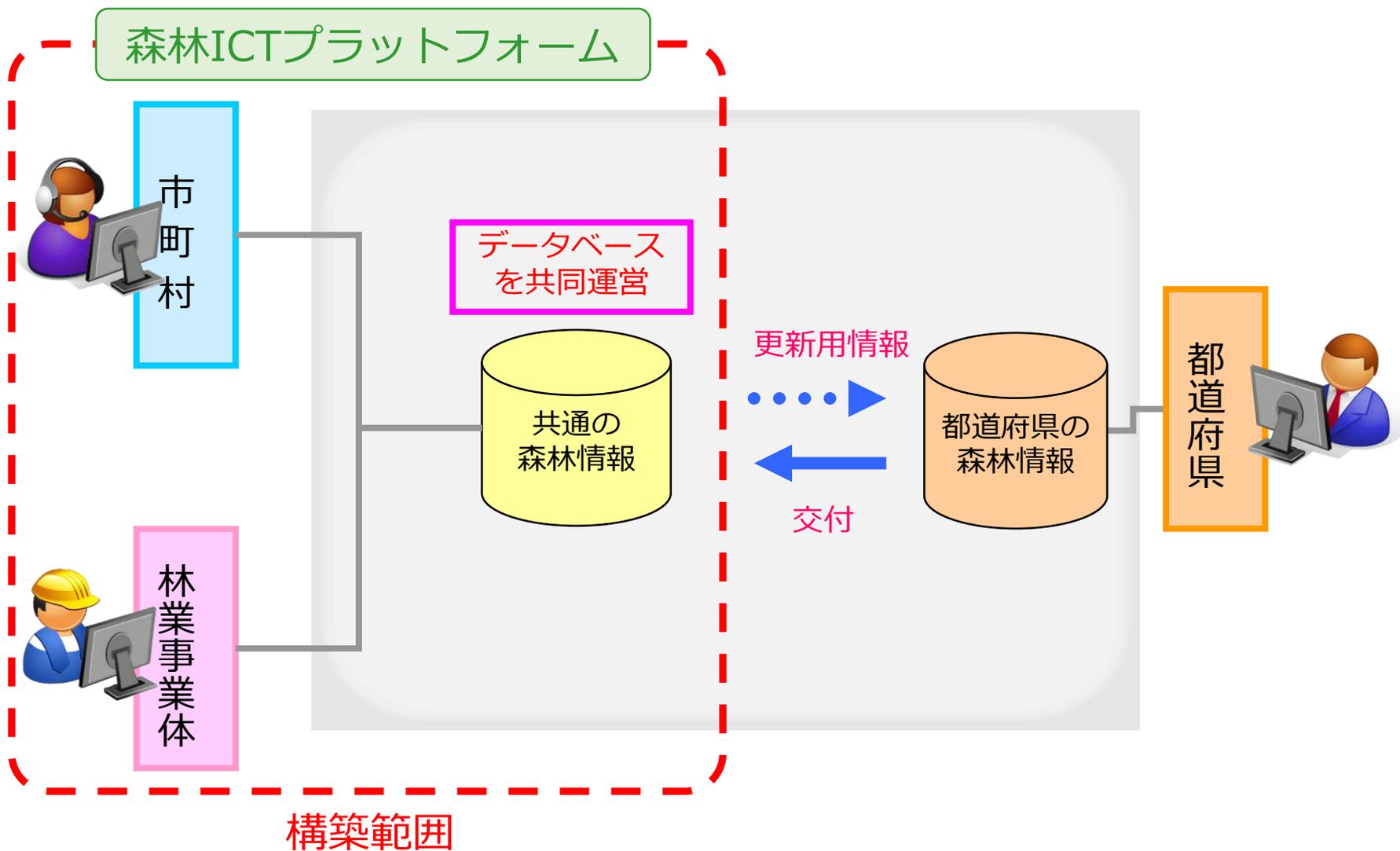
普及展開

H28 総務省
ICTまち・ひと・しごと
創生推進事業

・愛媛県西予市
・その他数自治体で
現在計画中

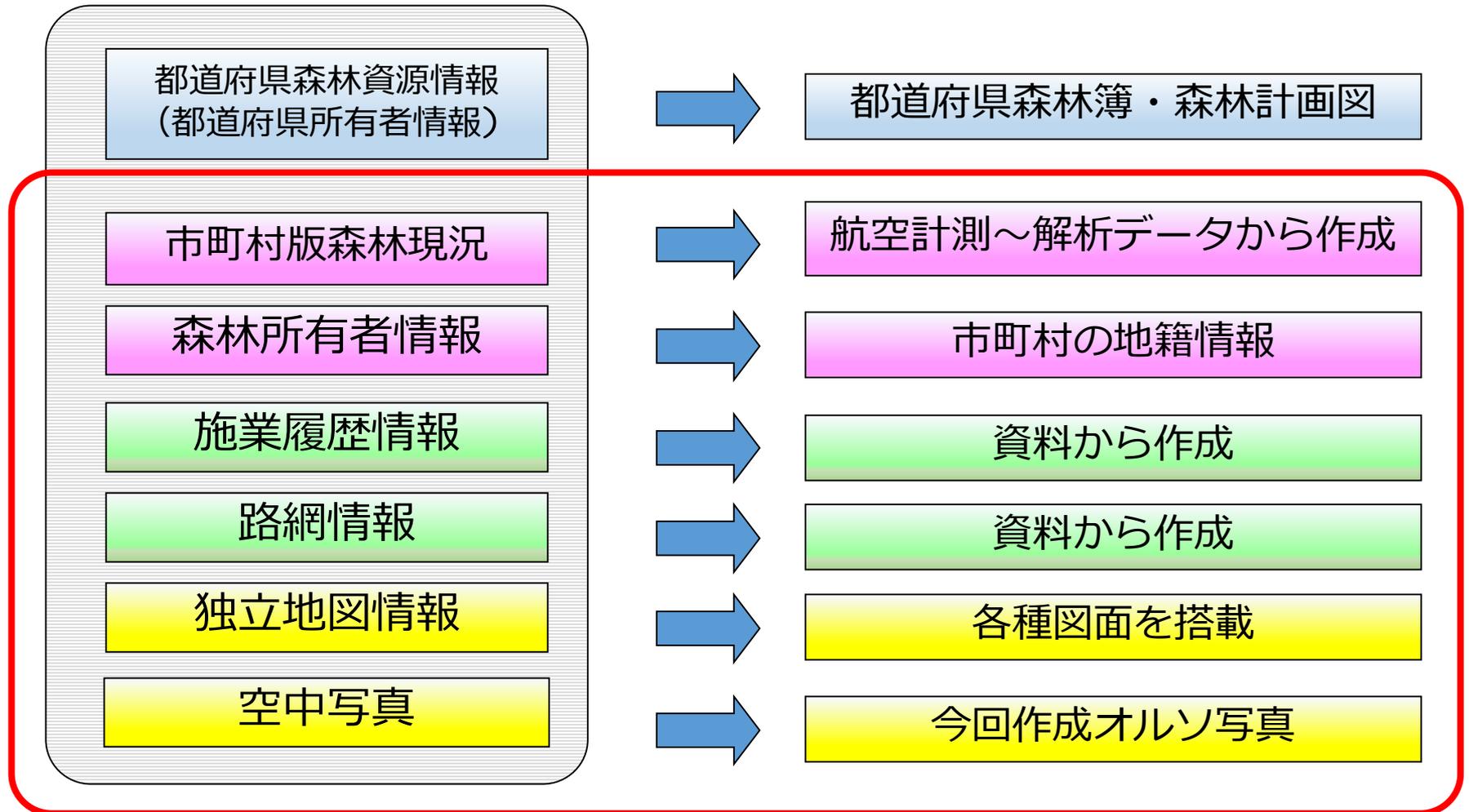
森林ICTプラットフォームの概要

システムの概念図と構築範囲



森林ICTプラットフォーム 主要なデータ

森林ICTプラットフォーム：主要データ



林野庁森林クラウドシステム標準化事業の標準仕様を採用

「森林クラウドシステム標準仕様」採用の効果

効果①：導入決定から稼働までのスケジュールを大幅に短縮

● システム導入時：市町村担当者様からの声

森林GISには詳しくないし、システムの仕様を検討するのは難しそう。



通常業務だけで手一杯。仕事が増えることにならないかな？

他部署から移動してきたばかり。正直、林業って何から始めれば・・・。



● 標準仕様を採用することで・・・

★ システム導入時に仕様を独自に検討する手間が省ける。

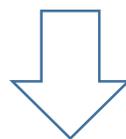
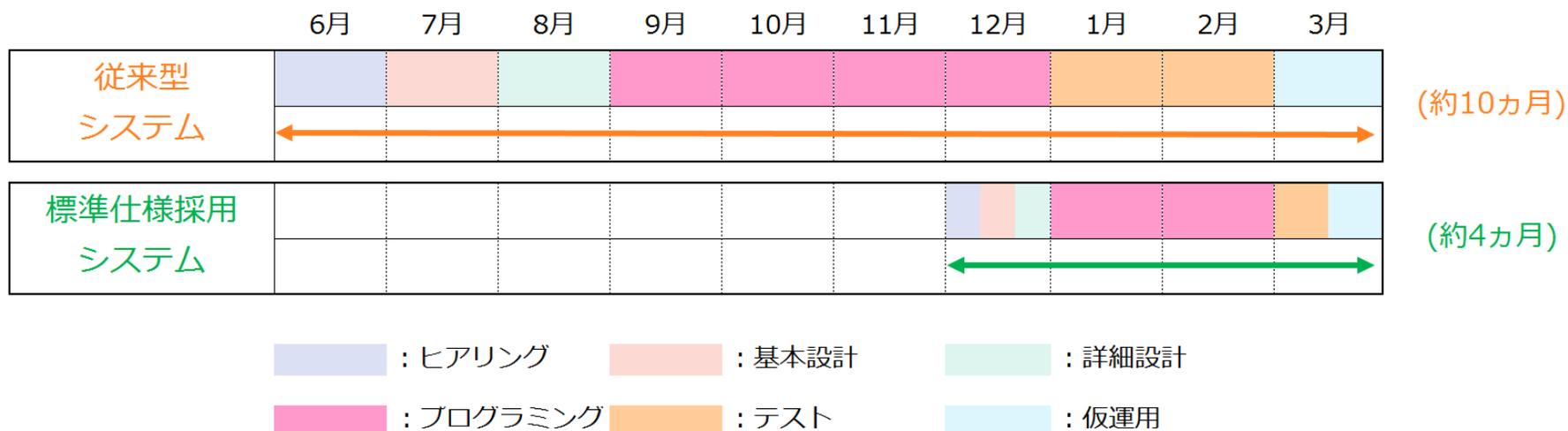
★ システム構築に際して、関係者間の合意形成を図りやすい。

★ 森林備整や林業振興に必要な十分なデータが網羅されている。

「森林クラウドシステム標準仕様」採用の効果

効果①：導入決定から稼働までのスケジュールを大幅に短縮

● システム導入のスケジュール比較（従来型システムと標準仕様採用システム）

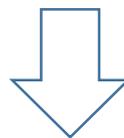


★ システム導入決定から稼働までの期間を4か月に短縮

「森林クラウドシステム標準仕様」採用の効果

効果②：システム構築コストの大幅な削減

★ ベースに標準仕様を採用した全国共通のシステムを構築しているため、ユーザーが低コストでシステムを導入できる。



★ 地域独特の森林管理に応じた機能のカスタマイズ等が可能に。

★ 地域独得の森林管理に対応

- ・天然林管理
- ・獣害対策
- ・地籍調査未了地域への対応

★ 多種多様なデータ整備が可能

- ・林相区分
- ・路網情報
- ・災害危険地区
- ・施業履歴
- ・保安林情報

★ 最新技術への対応

- ・航空レーザー計測技術への対応
- ・UAV撮影画像の取込み

★ システム機能の高度化

- ・各種タブレット版端末対応
- ・Web版GISの開発
- ・森林経営計画の進捗管理機能

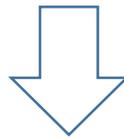
「森林クラウドシステム標準仕様」採用の効果

効果②：システム構築コストの大幅な削減

● システム構築費用比較のイメージ



■ カスタマイズ ■ プログラミング ■ テスト等 ■ 詳細設計 ■ 基本設計 ■ ヒアリング



★ 異なる都道府県でも同様のコストダウンを実現

森林・林業における市町村・林業事業体の役割

市町村の役割

★ 森林・林業の担い手は、市町村に移行されつつある。

⇒特に「林地台帳関連業務」

★ 地域活性化のために林業を振興する役割も担う。

⇒業務の範疇が「許認可業務」意外の多岐に

林業事業体の役割

★ 地域の森林整備・林業振興の中心的担い手として不可欠。

⇒施業の中心が「育林」から「伐採・搬出」のステージへ移行しつつある

⇒素材を有利販売、森林所有者への収益の還元が求められる

⇒施業の集約化がこれまで以上に重要

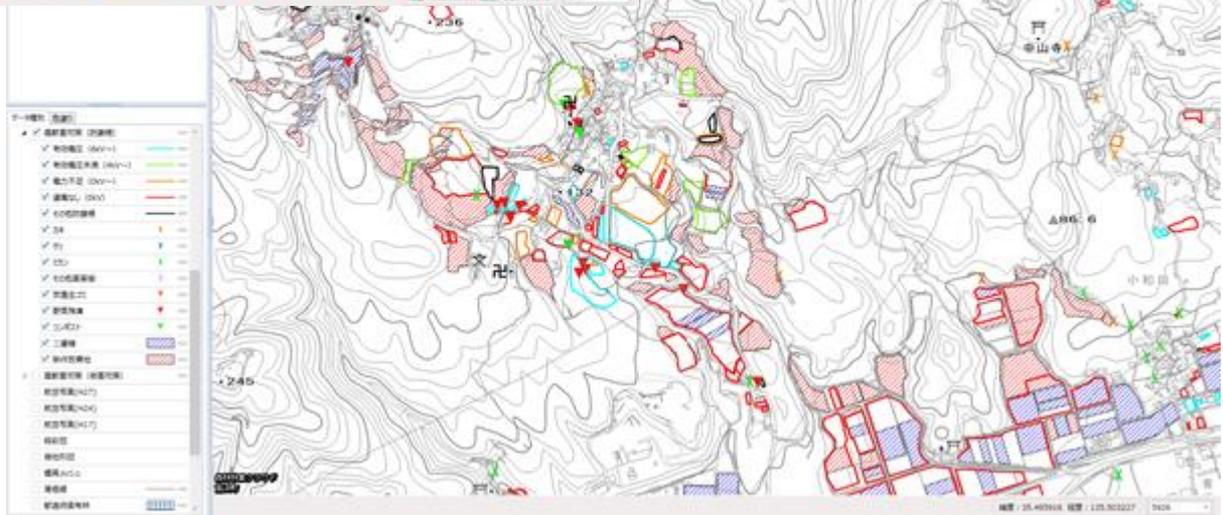
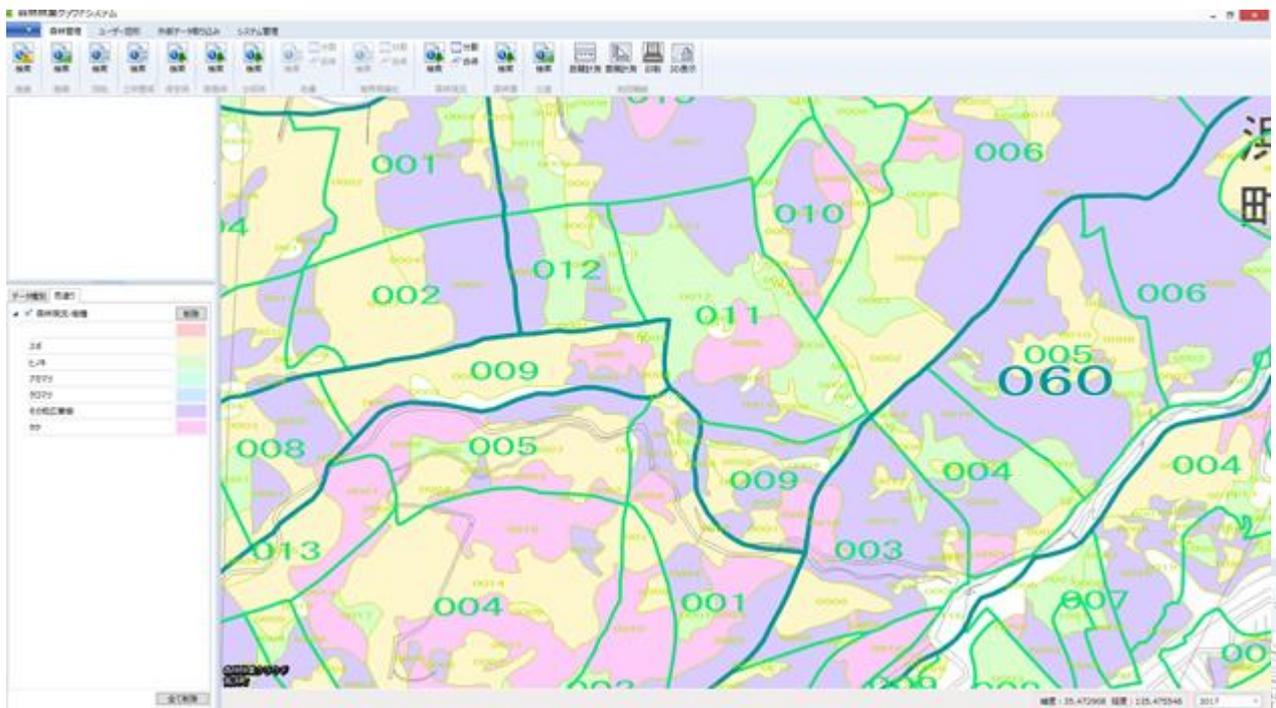


★ 地域の森林情報を効率よく整備する必要性 ⇒ 「標準仕様」の採用

★ 地域独特の森林管理手法に対応したシステム構築 ⇒ カスタマイズ

カスタマイズ例①

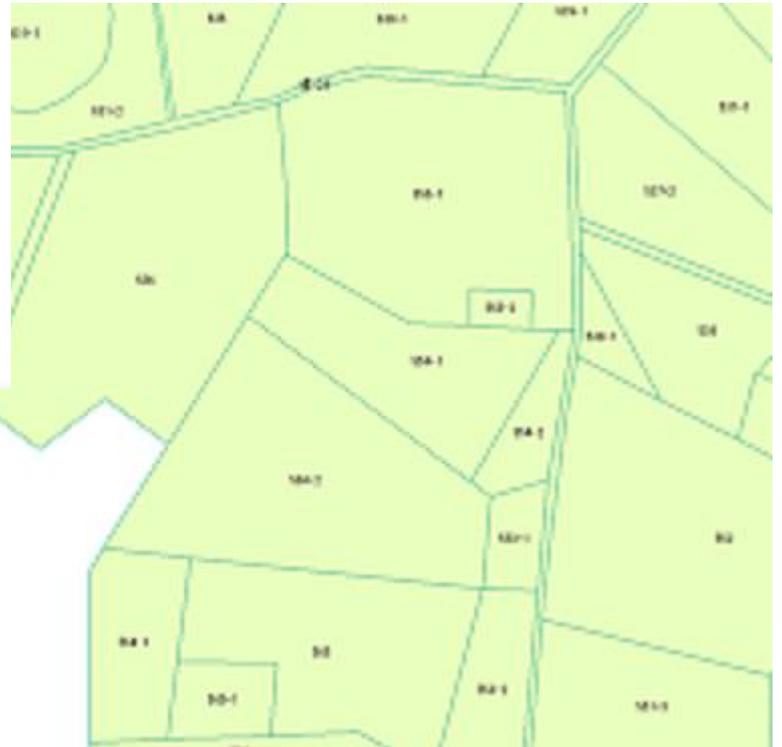
林相区分 (切り直し)



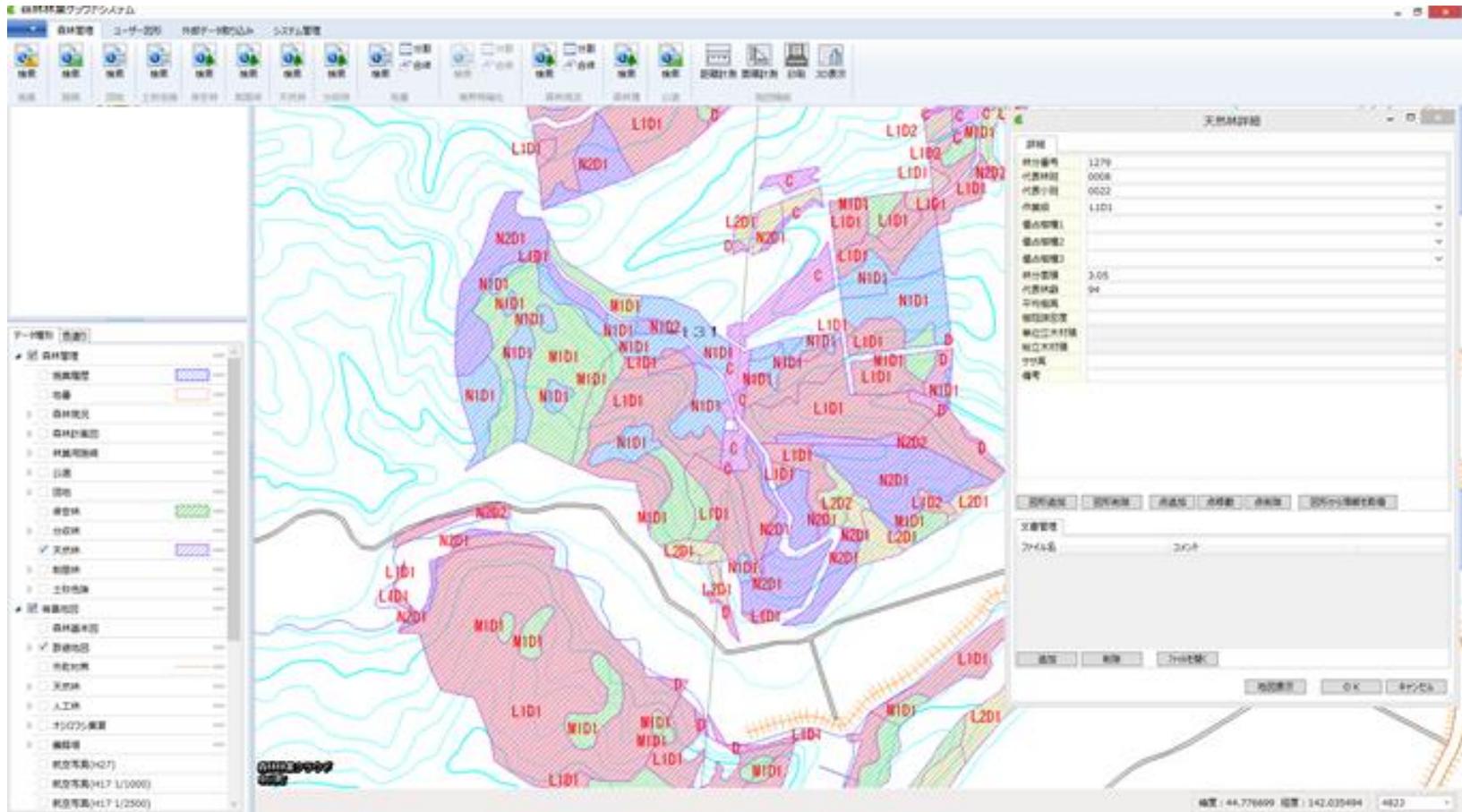
獣害対策

カスタマイズ例②

公図情報



カスタマイズ例③



天然林管理

カスタマイズ例④

The screenshot displays a web-based forestry management tool. The main interface includes a map with various colored overlays representing different forest planning zones. On the left, there is a sidebar menu with several options, including '森林計画図 (施業)', '森林計画図 (小班)', and '森林計画図 (林班)'. A '情報追加/ベースマップ切替' (Information Addition/Base Map Switch) button is visible at the top of the sidebar. In the center, a popup window titled '059-03-015-02' provides detailed information for a specific forest plot. The popup contains the following data:

059-03-015-02	
概要	
林班	059
小班	03
施業	015
施業枝番	02
林相面積	0.94
林相樹種名	ヒノキ
林地利用	48

At the bottom of the screen, there is a green button with the text '自伐林家用Webツール' (Self-harvested forest household web tool).

自伐林家用Webツール

標準仕様への期待

標準仕様のブラッシュアップ①(水平展開)

★ 地域性の取込み

⇒地域独得の森林管理手法の中には標準化すべき優れた手法も

★ 川中～川下への拡大

⇒流通・エンドユーザーまで含めたトータルでの取組みが必要

標準仕様のブラッシュアップ②(垂直展開)

★ 新技術への対応

⇒航空レーザー計測を用いた林地解析結果の活用

⇒地上3Dレーザー計測結果の活用

⇒UAV撮影データの取込み

標準仕様の更なる普及

★ 都道府県の標準仕様採用の推進

⇒市町村と都道府県が連携を深めるために必要不可欠